



2017年度  
特定非営利活動法人コミュニティリーダー ひゅーる ぽん  
**事業報告書**

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

## 1.運営に関わる事業

=その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：138,368円】

今年度は、これまで準備をしてきた社会福祉法人化について議論し、これからのあり方について考えました。理念を大切に活動の継続と将来について考える中で、社会福祉法人ではなくNPO法人として活動する結論に至りました。更なる成長を目指し、認定特定非営利活動法人取得を目標に準備を進め、2018年3月に認定をいただきました。この新たなスタートを機に、より一層私たちの活動を高めていきたいと思えます。

労働環境の整備と業務管理では規定・帳票類、備品管理の整備を行い、少しでも働きやすい職場づくりに取り組みました。財政面では、会計処理の手順、規程類の見直し、わかりやすい収支報告資料の作成に取り組みました。きつ組の通所率が伸びなかったことから収入はやや減少したものの、効率的な運営で支出を抑え今年もプラス収支となりました。一方で新規会員獲得のための積極的な発信ができなかったなどの課題が残りました。次年度は手法を見直して情報発信力を高め、より一層支援者の拡大を図りたいと思えます。

研修では、全拠点のスタッフが日々の実践を振り返り、子どもたち、通所者の成長観、支援観をトータルサポートの側面から考える時間を継続して持ち、今後活かしていけるよう取り組みました。

### 1-1 各種運営会議

#### 1-1-1 運営に関する会議

1-1-1-1 通常総会	1回
1-1-1-2 臨時総会	1回
1-1-1-3 顧問監事会	1回
1-1-1-4 理事会	2回
1-1-1-5 運営委員会	12回
1-1-1-6 Think Different・外部協働会議	12回
1-1-1-7 業務セクション会議（総務・財務・研修）	28回
1-1-1-8 プログラム検討委員会	20回
1-1-1-9 こども発達支援センター運営委員会	1回

#### 1-1-2 プログラム実施に関する会議

1-1-2-1 コミュニティスペース事業に関わるプログラム会議	105回
1-1-2-2 まちづくり・ボランティア育成事業に関わるプロジェクト会議	29回

### 1-2 活動支援プログラム

1-2-1 Hull Fan	698,088円
1-2-2 一般寄付	308,725円

### 1-2-3 その他

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン様より寄付	29,600円
※テレビ（緊急時情報収集用）を購入させていただきました。	
沼田仏教婦人会連盟様より寄付	70,000円
株式会社エクシス様より寄付	200,000円

## 1-3 研修

### 1-3-1 新人スタッフ研修 12回

「ひゅーるぽんの活動理念」「就業規則と個人情報保護について」「活動拠点の体験実習」など

### 1-3-2 グループ内研修

#### ①スタッフ研修 10回

「緊急時対応マニュアルの確認（子ども行方不明時）」「応急救護・AEDの研修」「発達検査について」「ひゅーるぽんで育てていきたい力について（7回）」

#### ②地域の保護者、事業所を対象とした公開研修 3回

「就学を考える」「障がいのある人の性について」「意思表示が難しい知的障がいのある方の権利を守るために」

### 1-3-3 他団体主催セミナー（講座）への参加など

全国児童発達支援協議会施設長研修・職員研修、ボランティア全国フォーラム2017、ペアレントメンターコーディネーター養成研修、社会福祉施設新入職員研修、広島市西部こども療育センター公開セミナー など

### 1-3-4 施設視察

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館

## 1-4 その他 広報

### ①アート・ルネッサンス2018

取材：中国新聞2018/2/11朝刊、産経新聞2018/2/11朝刊、  
TSS「みんなのテレビ」2018/2/12

広報（開催告知）：中国新聞朝刊2018/2/9、2018/2/16、Grandeひろしま2017年冬号

### ②平成29年度「厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業」

取材：中国新聞2018/1/10朝刊、中国新聞2018/1/14朝刊、朝日新聞2018/2/16朝刊

公演の広報：シアターガイド2018年2月号、Grandeひろしま2017年冬号、  
ひろしま市民と市政2017/12/15号



## 2.コミュニティスペースプログラム

2-1 こども発達支援センター【事業費：57,411,377円】＝子どもたちの育ちの支援に関わる事業

2-1-1 児童発達支援事業（ひよこ組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：32,788,426円】

今年度も、生活年齢を基盤としたクラスと、発達課題別グループの所属集団を構成し発達支援を進めました。「生活支援を重視した発達支援」では、季節を感じながら行事や文化を基盤にした療育を組み立てました。「家族を巻き込む発達支援」では、保護者や兄弟姉妹児にも文化を感じてもらえるように、常に家族との連携を意識した取り組みを実施しました。「多様な集団を意図的に組織していきながら、『いつでも どこでも だれとでも』の力をつけていく発達支援」では、生活年齢基盤のクラスと発達課題別グループの発達支援を実施しました。

また、家族支援をより具体的に考え、これまで通り24時間丸ごと捉える目を持ち、家庭の課題を浮き彫りにしていける懇談や保護者対応を行いながら、一緒に対応を考えていきました。保護者研修としてペアレントトレーニング研修を継続して3回実施し、具体的に家庭での成果が見え始めるケースもありました。また、発達支援終了後の家族支援プログラムの居残り保育「ゆうやけひよこちっち」を試行し、1年間でのべ500件の利用がありニーズの高さがうかがえました。

食育に関しては、保護者研修を行い、給食で提供している副菜とおやつを保護者に食べていただくなどして、より給食への理解を深め、日々の食事についても考える場になりました。また、偏食対応では保護者、保育士と連携しながら慎重に進め、大きな変化がみられるケースもありました。子どもたちが楽しく安心して食べられる給食の提供を目指して、子どもたちにとっても馴染み深い献立や季節を感じられる行事食を取り入れるなどの工夫も行いました。

2-1-2 放課後等デイサービス事業（きっず組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：18,239,831円】

きっず組では、集団の中で子どもたち同士が育ちあう心の成長を大切に活動をしています。中高生の子ども達は、日々の活動や地域の行事を自分たちで企画・実行することで、自発性を発揮しました。特に昨年度はこれまで自転車練習を重ねてきた中高生の子どもたちが、しまなみ海道を走破するサイクリングに挑戦し達成することで自信を高めました。また、進路のことや学校、友達のことなどで悩んでいる子にはスタッフや同年代の友達が話を聞く時間を作り、受け止めるとともに多様な考え方も示しました。小学生の子どもたちは小集団での遊びや行事を通して友達と一緒に過ごす楽しさを感じたり、友達と一緒に役割を担い達成することで交流感を高めました。日常的に卓球や野球、ドッチボール、バレーなどで小学校から高校生までの子どもたちが一緒に活動する中で、大きい子が小さい子にわかるように説明をしたり、もっと上手になりたいと思い練習をしたりする姿が見られ、関係の深まりと相互の成長が見られました。

また、必要な子にはチェック表を用いて、家庭と連携しながら子どもたちの基本的な生活習慣の習得を応援しました。

今年度も、学校に行くことが難しい子どもたちの受け入れを行いました。学校へ訪問したり、先生に活動の様子を見ていただきながら、月に1度、書類での報告と電話連絡を行い子どもたちの支援に活かしました。また、放課後に通う子どもたちの学校との連携も昨年度に比べ、5件増えました。引き続き、学校との連携を行いながら、充実した支援につなげていきます。

事業目的	子どもたち（主に不登校児、障がいのある子ども）の発する思いや願いをくみ取り、大切に育む事を活動の基本とし、安心感を基盤に人や社会とつながり、自分らしさ、自分の能力をいきいきと発揮していけるよう育ちの支援を行います。		
実施日時	通年	活動日	ひよこ組 244日 きつず組 243日
実施場所	こども発達支援センター		
登録数	児童発達支援（ひよこ組）34名 ※2018年3月31日現在	放課後デイサービス（きつず組）27名 その他利用人数 2名 ※2018年3月31日現在	
利用人数	児童発達支援（ひよこ組） 子ども：のべ 5,839名 スタッフ：のべ 2,881名	放課後デイサービス（きつず組） 子ども：のべ 3,730名 スタッフ：のべ 1,440名	
実施内容	<p>児童発達支援（ひよこ組）</p> <p>(1)2歳から6歳までの障がいのある子ども達を対象として、育ちの支援を行いました。</p> <p>水曜日を除く、月～木曜日…10：00～15：00 金曜日…10：00～14：00 土曜日…10：00～15：00 ※祝祭日を除く</p> <p>※このプログラムは児童福祉法に基づく児童発達支援事業として実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童発達支援計画に基づいた療育</li> <li>○ 季節行事や畑活動</li> <li>○ 児童発達支援計画提示・まとめ懇談、および必要に応じて個人懇談を実施</li> <li>○ 保護者研修（障がい特性・先輩保護者の話などを計画的に実施）</li> <li>○ 保護者支援（ペアレントトレーニング研修、家庭訪問、ゆうやけひよこちっち）</li> <li>○ ひよこサロン（保護者同士の交流・情報交換の場として月1回実施）</li> </ul>		
	<p>放課後等デイサービス事業（きつず組）</p> <p>(1)6歳～18歳までの不登校及び障がいのある子どもたちを対象として、育ちの支援を行いました。</p> <p>水曜日を除く、月、木、金曜日…10:00～18:00 火曜日…14:00～18:00 土曜日…10:00～16:00 ※祝祭日を除く</p> <p>※このプログラムの一部は児童福祉法に基づく放課後等デイサービスとして実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 季節プログラムを実施 5月…ぼんぼんと合同BBQ 6月…ひよこ組と合同遠足 7月…カヌー体験 8月… キャンプ、宮島登山、夜市 9月…安芸太田町の子ども達との交流会 10月…しまなみサイクリング、ハロウィンパーティー 12月…クリスマス会 1月…雪遊び 3月…運動会、旅行 ※その他、毎月のお誕生日会を実施</li> <li>○ 年齢別活動（サイクリング、クッキング、運動クラブ等）</li> <li>○ 他団体からの招待等によるレクリエーション活動（東照宮の写生大会）</li> <li>○ 安佐南区民祭り、佐東ふれあい祭りに出店</li> <li>○ 川内地区の親善バレーボール大会に参加</li> <li>○ 個別支援計画提示・まとめ個別懇談、および必要に応じて個人懇談を実施</li> <li>○ 保護者研修「大人になること」を実施</li> </ul>		



2-1-3 保育所等訪問支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：54,209円】

事業目的	保育所等において、発達に支援が必要な子どもが他の子どもとの集団生活に適應することができるよう適切で効果的な専門的支援を行います。
実施日時	通年
実施場所	保育所等
実施内容	実施件数は0件でした。相談支援事業所からの依頼があるものの、訪問支援保育士が児童発達支援と兼務のため、時間的に出向くことが難しい状況がありました。

2-1-4 障害児相談支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児地域支援事業

障害児指定特定相談支援事業 = 障害者総合福祉法に規定する事業

【事業費：4,124,243円】

今年度も、相談支援では、子どもの育ちに関する保護者からの相談を受け、発達の支援についてともに考えてきました。計画相談支援については、ひゅーるぽんの通所者を中心に制度の具体的な内容や、専門家とともにその子を取り巻く支援者みんなが連携しながら丁寧な発達支援を行なっていく意義を伝える機会を作りました。特に初めて福祉サービスを利用する方や、就学や就労等で生活環境や受けられる福祉サービスが変わっていく方にとっては、本人にとってどのような生活支援が本当に必要なのか、丁寧にに関わりながら一緒に考えていくことが大切だと感じています。しかしながら、サービス等利用計画の作成を担う相談支援専門員の不足や、利用計画作成に係る報酬が少なく事業の運営が厳しいという相談支援体制全体の課題は引き続き残っているのが現状です。福祉サービスを必要としている人の誰もが、安心して支援を受けながら生活することができるよう、体制の整備や改善も必要だと感じます。

事業目的	地域の発達に支援が必要な子どもが自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう相談支援を行います。		
実施日時	通年		
実施場所	こども発達支援センター、各家庭など	活動日数	年間 245 日
参加人数	相談件数 のべ223 件	スタッフ	のべ 245 名
実施内容	<p>(1)一般相談支援  一般的な育ちに関する相談や児童福祉サービス利用に関わる相談を受け、必要に応じてこども発達支援センター、ぼんぼんの施設見学や活動内容の紹介、障害福祉に関する制度やサービスに関する説明、行政や保育所、学校、その他福祉サービス提供事業所など他機関との連携を行いました。</p> <p>電話相談 (94件)  見学相談 (50件)  訪問支援 (46件)  他機関との連携、紹介その他 (33件)</p> <p>(2)計画相談支援  障害児支援利用計画の作成(52件)  障害児通所支援に係る利用計画の作成とモニタリングを行いました。</p> <p>(3)障害者自立支援協議会安佐南地域部会への参加 (6回)  区障害福祉課、社会福祉協議会と区内の相談支援事業所で構成される部会を隔月で開催しました。</p> <p>(4)障害者自立支援協議会安佐南地域部会こども部会への参加 (6回)  地域で暮らす発達課題のある子どもたちの保護者へアンケートを実施し、自立支援協議会として取り組んでいくべきことを協議しました。</p>		



2-1-5 広島市障害児等療育支援事業 =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：2,203,756円】

今年度は広島市の実施する障害児等療育支援事業の委託を受けて2年目となりました。この事業では、子どもの発達について心配はあっても専門機関に相談できていなかったり、障害福祉サービスの利用につながっていない子どもとその保護者を対象に、個別相談や集団での発達支援を実施し、より充実した初期支援を行うことができました。今年度は子育てオープンスペースで定期的な発達相談日を開催し、子育てに困難を感じる親子に「身近で・気軽に」相談できる環境が整い、支援につながったケースもありました。また保健センターからの相談や紹介で他機関とのケース会議を開くなどケースを共有・連携し、子どものより良い支援について考えることができました。こうした行政機関等ともしっかり連携しながら支援を進めていくことの重要性を感じました。来年度も引き続き様々な機関と連携しながら、「身近で・気軽に」相談できる地域のセンターとしての役割を果たしていきたいと思えます。

事業目的	広島市より委託を受け実施。障害児等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図り、地域の発達に支援が必要な子どもたちの福祉の向上を図ります。
実施日時	通年
実施場所	こども発達支援センター、オープンスペースKUSUKUSU祇園、保育園、幼稚園
対象者	のべ 130名
実施内容	<p>(1)在宅支援訪問療育指導事業                  広島市の常設型オープンスペースKUSUKUSU祇園で2ヶ月に1回予約制で発達相談日を設け、発達相談を行いました。(年12回) 祇園エリアでなかなか専門機関に相談に行けない親子が発達相談日をきっかけに関係機関につながったケースも2件ありました。</p> <p>(2)在宅支援外来療育指導事業                  ○ 子育てサロンひゅーる                  一部を本事業に位置づけ、月2回(第2・第4火)、年21回実施しました。のべ195組のうち88名が本事業の対象者でした。                  ○ ぴよぴよくらぶ                  発達の支援が必要な幼児(親子)を対象に、生活や遊びの支援を行いました。前期5回、後期5回(第1・第3火登録制)に実施のべ30名の利用がありました。</p> <p>(3)施設支援一般指導事業                  ひゅーるぼんの保育士等の訪問支援員が、地域の保育所等の職員に対し、発達支援に関する技術の指導等を行いました。(3件)</p>



2-1-6 その他 発達支援センター自主事業 =自主事業 【事業費：912円】

事業目的	こども発達支援センターとしての専門機能をいかし、地域で発達に支援が必要な子どもやその家族への相談、他機関との連携を行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たします。
実施日時	通年
実施場所	こども発達支援センター
対象者	のべ 953名
実施内容	<p>(1)子育てサロンの開催 月2回、年21回実施しました。のべ195組の親子の参加がありました。</p> <p>(2)子育て支援事業 園庭での水遊びなどを5回企画し、気軽に足を運び子育ての相談ができる場作りを行いました。</p> <p>(3)アフターフォロー保護者支援事業 ひよこぐみを退園した保護者を対象とした、こっこくらぶ（幼・保育園に通う保護者）とこけこっこくらぶ（就学児の保護者）を2ヶ月に1回実施し、悩みの軽減を図りました。</p> <p>(4)地域啓発（公開研修）の実施 3回 「就学を考える」16名 「意思表示が難しい知的障がいのある方の権利を守るために」4名 「思春期の性について」（事業所連絡会と合同開催）32名</p> <p>(5)安佐南区こども発達支援事業所連絡会の事務局 安佐南区にある、児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所連絡会の事務局を務めました。3ヶ月に一回連絡会を開催し、事業所同士の連携、情報交換、「思春期の性について」の研修などの活動を行ってきました。（全4回）</p> <p>(6)福祉施設としての役割 「夏のボランティア体験プログラム」を実施し、地域の中学生・高校生の受け入れを行いました。また、保育士や音楽療法実習生、社会福祉士実習生、中学生・高校生の職場体験実習の受け入れを行いました。</p>



## 2-2 コミュニティほっとスペースぽんぽん (=地域活動支援センター)

=障がいのある人等をはじめとする成人の地域生活ならびに社会参画支援に関わる事業

【事業費：15,150,039円】

今年度も活動への充実感・達成感を高めながら、いきいきと人や社会とつながって生きていくための支援を行ってきました。

働くことへの支援としては、引き続きアートの製品づくり、リサイクルショップからのおもちゃの清掃、服のアイロン掛けの下請け作業を中心に行いました。アート製品では、動物愛護団体とのコラボTシャツ、地元企業の製品パッケージ（のど飴、紅茶）、地域の和菓子屋とのアートラッピング、工房尾道帆布との製品（エコバック、ポーチなど）等、他団体と一緒に作ることに力を入れました。ぽんぽんだけで取り組むのではなく他団体と協働でグッズ製作を行うことで、新しい付加価値を生むことができました。グッズ販売の委託先も増えたこととアートカタログの効果もあり、より多くの方に見ていただく機会も増えました。

生きがい支援の一つでもあるアートの創作活動では、6月に茶房金木屋と、9月にはギャラリーGで作品展を開催しました。特にギャラリーGの作品展では、ぽんぽんのアーティスト3名の作品を、広島を中心に活動されている一般のアーティスト3名が会場構成を考え展示をしました。障がいの有無に関わらず、アーティスト同士の感性が交錯した空間は今までにない新しい空間となりました。400名以上の方にご来場いただき、作品展の内容、グッズともに好評でした。期間中は、ぽんぽんのメンバーもグッズ販売などで毎日交代で、接客も行いました。それぞれが、自分の持つ力を発揮することができ、達成感を持つことができた活動となりました。

それらのアートの活動に加え、もうひとつの自己表現として、アートサポートセンターひゅるるが主催した演劇のワークショップにも積極的に参加しました。その中で結成された「おきらく劇場ピロシマ」の役者として5名が活動しました。本公演に向けての練習を重ねる中で多くの参加者と協力し充実感、達成感を持つことができた活動となりました。また日常の中でも、週に一度、演劇クラブを実施し、多くのメンバーが演劇を楽しみました。

毎年課題として挙がる、通所者の高齢化や健康面に対して、医療機関での健康診断を今年も実施しました。法人の保健師による健康教室や管理栄養士による食育教室など本人向けの勉強会も実施しました。外部講師を招いての運動クラブも実施し、健康について考える活動も継続して行いました。

来年度もより彼らの想いを大切に作品の創作、アート製品づくりの環境と質を大切に、アートや演劇など充実感また自信のもてる生きがい支援や、成人期の課題を家族と共に一緒に考え、学んでいけるような場を作り、将来を本人、家族が見据えた生活を目指すことができるよう支援していきたいと思っています。



事業目的	18歳以上の障がいのある人の就労、社会参画ならびに豊かな地域生活の支援を行うことを通して、人や社会とつながる喜びを感じながらいきいきと豊かに生きていくことを支援します。		
実施日時	通年		
実施場所	コミュニティほっとスペース ぼんぼん		
登録数	2018年3月末時点	12名	活動日数 年間 248 日
利用人数	利用者 のべ 2,674 名	ボランティア のべ 45名	
実施内容	<p>(1)人や社会とつながっていきいきと豊かに生きる社会生活支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通所者一人ひとりの思い・能力に応じて、主に、「アート製品づくり」「リサイクルショップの下請け作業」で働く事を中心に活動を行い、『社会的自立』と『社会生活力の向上』を目指しました。</li> <li>○ 働くことの支援 アート製品づくり・販売。主な販売先として、出張販売（三輪明神、クリップ広島（広島トヨペット）、中央図書館、ANAクラウンプラザホテル広島）、委託販売（LECT 蔦屋書店、ふれあいプラザ、広島県立美術館、アートマルシェ、尾道市立美術館。アートレンタル（おりづる歯科、ダイハツ広島販売株式会社＜観音店、曙店＞ダイハツ岡山販売株式会社＜本社、野田店＞）、その他、直送便事業等。</li> <li>○ 生きがいの支援 アート活動（絵画や陶芸）での自己表現、作品の発表の場づくり、茶房金木屋での作品展（広島市安佐北区）、ギャラリーGでの作品展(広島市中区)、アート・ルネッサンス2018応募・出品（広島市中区）、広島駅南口エールエールA館パネル展示（広島市南区）、積水ハウス作品展（広島市安佐南区）、他県公募展への応募・出品（東京・大阪）など。レクリエーションの実施（1泊旅行、忘年会など）。アートサポートセンターひゆるる主催ワークショップの参加（美術、演劇）、きつづ組と合同でのバーベキュー、焼き芋大会など。</li> <li>○ 日常生活の支援 日常生活能力・社会生活能力の向上のために、生活面の指導・支援・個別目標を明確にした個別支援計画の作成および本人や家族との個別懇談の実施。保健師による健康教室の実施。医療・関係機関との連携。管理栄養士による食育教室。外部講師による運動教室、医療機関での健康診断の実施、人権擁護センターほっと「ほっとさん」の訪問など。</li> </ul> <p>(2)あたたかなまちづくりの拠点となる活動 ぼんぼんギャラリーでの絵画展示・企画展の実施、地域の人が集えるイベント「ぼんぼんにゃんフェス」など</p> <p>(3)利用相談や地域生活に関わる相談、利用希望者の見学・体験、実習生、ボランティア・アートサポーター、見学の受け入れ（見学…8名）</p>		



### 3.まちづくりフロンティア・コミュニティボランティア育成 プログラム

#### 3-1 まちづくりフロンティアプログラム =まちづくりに関わる事業

##### 3-1-1 アートによるまちづくりプログラム

##### 3-1-1-1 広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2018

=まちづくりに関わる事業

【事業費：4,009,874円】

アート・ルネッサンスは昨年に引き続き、広島市と協働の形で「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2018」として実施しました。障がいのある人たちの自由でありのままの表現が大切にされること、そしてそれに魅力を感じ、彼らの創作に寄り添うサポーターの輪が広がり、つながっていくことが、広島からアートを通して発信する一つの広島スタイルの展示の形を示すことができました。

福岡県でアート活動を支援している工房まるの作品を招待作品として展示し、ギャラリートークを行いました。サポーターやアートに興味がある方など、多くの方々にご来場いただきました。今年も新たに協賛してくださる企業が増え、ますます注目が高まっている彼らのアートの魅力をこの事業を通じて多くの方々に伝えることができました。



事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人のアートが持つ芸術性と価値を広く社会に広めていきます。</li> <li>○ アーティストと社会がつながる社会参画の場をつくります。</li> <li>○ アーティスト、サポーター同士のつながりを広げます。</li> <li>○ アーティスト、サポーターが表現活動に取り組む意欲を高めます。</li> </ul>
実施日時	2018年2月10日（土）～2018年2月18日（日）9日間 （11:00～19:00最終日は18:30まで）
実施場所	合人社ウェンディひと・まちプラザ 北棟4Fギャラリー
対象者	来場者：2,127名 運営協力者：のべ約180名
実施内容	<p>(1)昨年に続き広島市との協働で「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2018」として開催しました。</p> <p>(2)主に中国5県から作品を公募し、応募総数588点の中から入選作品122点を展示しました。</p> <p>(3)今年はいじめて賞の審査を実物の作品を見て行いました。また会期中来場者に賞を決めていただくオーディエンス賞も初めて実施しました。</p> <p>(4)オープニングセレモニーには、アーティストや協賛企業、その他の来場者約350名が集まりました。セレモニー後は、毎年好評の入選アーティストと審査員による作品解説を行いました。</p> <p>(5)特別招待作品展示として、福岡県の工房まるの作品を展示しました。加えて工房まる代表理事樋口龍二氏に作品解説をしていただきました。アートサポーターのつながり作り、研鑽の場となりました。</p> <p>(6)今年度の開催に向け、協賛企業の輪が広がり、地元企業様13社の特別協賛、ファンクラブ11社、個人協賛は58口の(次年度の開催資金に充てるものも含めて) ご協力いただきました。また損害保険ジャパン日本興亜株式会社からの助成金「Heart&amp;Artsプログラム」により広島電鉄ラッピング電車を走行することができました。</p> <p>(7)ヴィオラ奏者の沖田孝司さん・千春さんのロビーコンサートや、まちカフェさんによるコーヒーサービスなど、今年も作品展を盛り上げてくださるために多くのみなさまにご協力をいただきました。</p> <p>(8)アートサポーターのみなさんと、公募展の方向性について一緒に考えるとともに、作品の写真撮影や広報、会期中の運営、協力金集めなど様々な場面において協働の形で取り組みました。</p> <p>(9)広電電車の外装のラッピングに加え車内もアートで飾り、走行させることで、より多くの市民の皆さんにアートに触れていただく機会を作りました。（走行期間2018年1月17日～2月18日）また幸せProducts.と協働でアートステッカーの作成と配布販売を実施し、よりアートを身近に感じていただける取り組みも行いました。</p>

3-1-1-2 幸せProducts. =まちづくりに関わる事業 【事業費：447,103円】

今年度は、社会の中にアートがある面白さを伝える機会や場面を積極的につくり、アートを取り入れた商品の継続的な販売ができるように取り組みました。

今年度からLECT内にある蔦屋書店（広島市西区）で、協働開発したオリジナルブックカバーの販売をしました。これまでに6種類のブックカバーを製作し、販売を行いました。今後も品質を改良しながら、継続的な販売を続けていきます。製品化の取り組みと合わせて、作品の2次利用にあたり、アーティストの権利を侵害しないように、契約書の整備にも取り組みました。アーティストや支援者にわかりやすい資料の作成や丁寧な説明を心がけました。

引き続き、広島駅南口にある店舗と壁面の展示スペースを活用し、アートに日常的に出会える機会をつくりました。「アート・ルネッサンス2018」の開催に合わせ、入選作品を使用した「安佐動物公園×アストラムライン」の広告を県庁駅前に設置したり、入選作品を使ったステッカーの製作、広島電鉄のご協力のもと電車の外装と内装にアート作品を施したラッピング電車の走行を行うなど、より身近なところでアートに出会える取り組みをしました。これからも、日常的に彼らのアートに出会い感じる機会や場面をつくり、彼らのアートで社会が豊かになる仕組みを考えていきたい思います。

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会の中で障がいのある人のアートを普及させ、またアートの製品化を通して、障がいのある人の社会参画と自立を促進する取り組みを行います。</li> <li>○ アートをまちづくりに活かす取り組みを、ムーブメントとして高めます。</li> </ul>
実施日時	通年
実施場所	アストラムライン県庁前駅（広島市中区） 広島駅南口エールエールA館内（広島市南区） 蔦屋書店（広島市西区） 広島電鉄路線（広島市内） 幸せProducts.事務局内
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)蔦屋書店と販売する商品に向けた打ち合わせを重ねました。</li> <li>(2)安佐動物園・アストラムラインとの協働で、「アート・ルネッサンス2018」入選作品をアストラムライン県庁前駅通路の広告デザインとして掲示しました。</li> <li>(3)広島電鉄のご協力のもと「アート・ルネッサンス2018」入選作品をデザインしたラッピング電車を走行させました。</li> <li>(4)アートが日常的に社会に展開していく仕組み作りとして、広島駅南口にある店舗、壁面に定期的に作品を交換しながら展示を行いました。</li> <li>(5)「アート・ルネッサンス2018」入選作品をデザインしたステッカーを製作し、アートに出会う機会を増やす取り組みを行いました。</li> </ul>

### 3-1-1-3 アート教室・アートスペース =まちづくりに関わる事業 【事業費：847,958円】

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人のアートを支援するノウハウと資源を活用し、アートに取り組む環境を提供していきます。</li> <li>○ 地域へ開かれたアート教室を開催し、制作環境を高めていきます。</li> <li>○ アーティストの発掘とアートの社会化を目指していきます。</li> </ul>
実施日時	通年
実施場所	コミュニティほっとスペース ぼんぼん
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)アートスペース（絵画）の実施。週2回、2教室。（1教室月4回）（利用者各5名ずつ）</li> <li>(2)アートスペース(陶芸:外部講師)月2回実施。（利用者8名）</li> <li>(3)県内外の公募展に応募。アート・ルネッサンスやあいサポートアート展に入選。</li> </ul>

### 3-1-1-4 アートサポートセンターひゆるる =まちづくりに関わる事業

【事業費：17,401,234円】

障がいのある人の表現活動を支援するアートサポートセンターひゆるるでは、広島県の「平成29年度障害者芸術文化活動支援事業」（美術分野）の受託事業、厚生労働省の「平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業」（舞台表現分野）の受託事業、法人独自の自主事業を行いました。障がいのある人の表現活動が社会からも注目を集める状況になり、サポートセンターの役割も多岐に渡ってきました。

美術分野では、作品の2次利用に関する相談や問い合わせが増えました。そのような状況を踏まえ、本人の表現したいという思いを大切にすること、表現する場がきちんと保障されること、本人の思いに沿った支援をすることなど、大切なことを見失わないような支援を心がけました。

舞台表現では、初めての取り組みとなる演劇の分野に取り組みました。演劇専門のスタッフを迎え、障がいのある人と一般の方とが共に創る舞台に取り組みました。初めて出会うワークショップの場から、相互に理解を深め舞台を作り上げていく過程を、体験の場・人材育成の場・芸術作品づくりの全ての要素を取り入れた取り組みを行いました。その過程を通し、演劇の専門性と障がいのある人をサポートする視点を持ったファシリテーターの育成を行いました。

これまで法人独自で取り組んできたアートによるまちづくり事業の事務局として、各プロジェクトチームとともに事業を行いました。



3-1-1-4-1 平成29年度広島県障害者芸術文化活動支援事業 =まちづくりに関わる事業

【事業費：10,112,770円】

事業目的	障がい者芸術文化活動に関わる、活動基盤の充実・強化を図ります。
実施日時	通年
実施場所	広島県立美術館、広島市立大学、社会福祉法人創樹会、社会福祉法人ひとは会、尾道市立美術館、廿日市市総合福祉センター（あいプラザ）、合人社ウェンディひと・まちプラザ、川・森・文化交流センター、広島大学、広島市南区地域福祉センター、大崎上島町生活サポートセンターIランド、A病院、神石高原町知的障害者(児)家族の会ひまわり、広島市心身障害者福祉センター、尾道サンホーム、みゆき広場、一般社団法人 Smile Base、放課後児童デイサービスぶちとまと、重症児者福祉医療施設 ふれあいライフ原、障害者活動センターたまご、なないろ作業所
実施内容	<p>広島県「平成29年度障害者芸術文化活動事業」を受託して実施</p> <p>(1)広島県アートサポートセンターの運営 統括スタッフ1名、アドバイザー1名を配置。 協力委員会の設置（専門家協力委員11名。今年度より、舞台表現分野の委員を1名増。）</p> <p>(2)障がい者アートに関する普及・啓発と情報発信 ホームページ、Facebookなどで情報を発信。（ホームページアクセス数9,578件） サポートセンター主催の事業（ワークショップやセミナー）の案内・報告に加え、各団体からの作品展・公募展・セミナーなどの情報の発信。</p> <p>(3)障がい者アートに関する相談窓口 電話、ホームページ、訪問などを通して相談を受付、対応。（相談件数：88件／対応数：299件）</p> <p>(4)障がい者アートに関する人材育成事業 権利擁護に関するセミナーの開催 2017年11月3日（広島県立美術館） 内容：障がいのある人のアート活動についての権利擁護セミナー（参加者12名） 講師：弁護士 三浦友美氏、知的財産研究家 加藤直規氏</p> <p>(5)障がい者アートに関する創作活動支援（セミナー・ワークショップの開催／指導者派遣） セミナー ①2018年2月11日（合人社ウェンディひと・まちプラザ） 講師：樋口龍二氏（工房まる：福岡） 内容：アイダをつなぐための表現活動～「工房まる」と「mau lab.」の事例から～（参加者18名） ②2018年2月25日（広島市南区地域福祉センター） 講師：森下静香氏、小林大祐氏（Good Jobセンター香芝：奈良県） 内容：「たんぼぼの家」「Good Jobセンター香芝」の働き方や製品化の取り組みについて（参加者8名） ワークショップ ①2017年7月15日（広島市立大学） 講師：鹿田義彦氏（広島市立大学非常勤助教） 内容：「作品の写真撮影とデータ保存、記録について」（参加者11名） ②2017年9月24日（社会福祉法人創樹会 あゆみ苑成人寮） 講師：林幸和氏（あゆみ苑成人部施設長）、加藤宇章氏（アトリエぱお代表） 内容：事例発表「あゆみ苑成人寮の取り組みについて」「ペーパーズカルチャー」（参加者11名） ③2017年10月15日（社会福祉法人ひとは福祉会） 講師：松尾真由美氏（美術家） 内容：「指先から生まれる絵と造形」（参加者21名） ④2017年11月25日（尾道市立美術館） 講師：梅林信二氏（尾道市立美術館 学芸員） 内容：「作品の魅力を伝えるしかけ～企画・展示～」（参加者7名） ⑤2018年1月20日（廿日市市総合福祉センター あいプラザ） 講師：山先方江氏（日本版画協会会員）、濱田俊彦氏（画家） 内容：「版画で絵を楽しもう！！」「版画表現から見えてくる世界について」（参加者12名） ⑥2018年2月11日（合人社ウェンディひと・まちプラザ） 講師：樋口龍二氏（特定非営利活動法人工房まる代表理事） 内容：「商品開発やプロジェクトを始める前に」（参加者18名）</p>



## 3-1-1-4-2 厚生労働省平成29年度障害者芸術文化普及支援活動事業

=まちづくりに関わる事業

【事業費：7,288,464円】

事業目的	障がい者芸術文化活動（舞台芸術分野）の活動を普及します。
実施日時	2017年6月9日～2018年3月31日
実施場所	広島市東区民文化センター、広島市中央公民館、広島市中区地域福祉センター、広島市二葉公民館、合人社ウエンディひと・まちプラザ、広島市心身障害者福祉センター、広島駅南口広場
実施内容	<p>厚生労働省「平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業」を受託して実施</p> <p>(1)アートサポートセンター（舞台劇術分野）の運営  広島県「平成29年度障害者芸術文化活動事業」で美術分野、本事業で舞台芸術分野を開設。  統括スタッフ1名、常勤アドバイザー1名、非常勤アドバイザー1名を配置。  協力委員会の設置（専門家協力委員15名）、会議2回</p> <p>(2)障がい者アートに関する普及・啓発と情報発信  ホームページ、Facebookなどで舞台芸術分野の情報を発信。（ホームページアクセス数4,596件）  ワークショップの情報、活動報告、公演情報、他団体の情報のなどの発信。</p> <p>(3)障がい者の舞台芸術分野に関する相談窓口の解説。（美術分野に加えて開設）  電話、ホームページ、訪問などを通して相談を受付、対応。  （相談件数 7／対応数：7 件）</p> <p>(4)障がい者と共につくる舞台表現活動に関わる人材育成、障がいのある人の舞台表現の体験の場  ファシリテーターの育成（4名のファシリテーターの育成）  内容：ワークショップ4回（9/11,9/16,10/14,12/22・23）、演劇公演2回、公演に向けた稽古10回を通して実施。全国的に著名な講師とともに制作を共有。  ワークショップ講師：永山智行氏（こふく劇場代表：宮崎）  ワークショップ参加者数：のべ126人  公演演出：永山智行氏（こふく劇場代表：宮崎）  脚本：柳沼昭徳氏（烏丸ストロークロック代表：京都）  参加者数：稽古10回 のべ252人</p> <p>(5)発表の場づくり  広島県ヒューマンフェスタひろしまへの出演 参加者：28名  日時：2017年12月9日 14:00-14:30  場所：広島駅南口広場  演劇の公演  作品「ウタとナンタの人助け」出演者：23名 スタッフ：9名  日時：2018年1月13日  場所：広島市東区民文化センター  公演：11:00- ゲネプロ(リハーサル公演) 観劇者 60名  14:00- 公演1 観劇者 58名  17:30- 公演2 観劇者 59名（各回定員60席）  公演後、アフタートークを実施（2回）  登壇者：演出家・永山智行氏、脚本家・柳沼昭徳氏、出演者  再演（広島県の協力により実施）  作品「ウタとナンタの人助け」  日時：2018年2月18日 11:15-12:00  場所：合人社ひと・まち交流プラザ  公演：11:15- 観劇者120名以上  公演後、アフタートーク 登壇者：脚本家・柳沼昭徳氏、出演者</p> <p>(6)ネットワークづくり  協力委員会議（2回）協力委員16名  関係者会議（1回）20名</p> <p>(7)その他  この事業をきっかけに、おきらく劇場ピロシマという任意の団体（劇団）が結成され、「ウタとナンタの人助け」の作品を依頼に応じて再演していくことになりました。</p>

### 3-1-2 地域・社会啓発にぎわいづくりプログラム =まちづくりに関わる事業

【事業費：79,327円】

事業目的	ひゅーるぽんが実施する様々なプログラムを通して、多様な人たちの交流の場を創造し、人のつながりづくり、気づきや成長へと発展させていきます。
実施日時	通年
実施場所	NPO法人ひゅーるぽん
対象者	地域の人
実施内容	<p>地域啓発活動                      (1)夜市                      日時：平成29年7月22日（金）17時半～20時                      場所：ひゅーるぽん敷地内                      参加者：約200人                      内容：ステージ、飲食、アートグッズ販売、お化け屋敷、工作コーナーなど</p>

### 3-1-3 地域協力プログラム =まちづくりに関わる事業

【事業費：0円】

今年度は、11月5日（日）「安佐区民祭り」にきつ組が参加、11月11日（土）「さとうふれあい祭り」にきつ組とぽんぽんが参加しました。



### 3-2 コミュニティボランティア育成プログラム

=ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

【事業費：516,909円】

今年度は、中学生・高校生を対象に、夏のボランティア体験プログラムを企画し、多くの学生（申込者数：22名、のべ参加者：79名）の参加がありました。このうち、数名の学生は、体験プログラム終了後も、継続的にボランティアとして活動に参加していただいています。またこの他にも、昨年同様、崇徳高校インターアクトクラブ、アート・ルネッサンスアートサポーター、GAP広島、個人参加の学生さんなど多くの方々（のべ455名）に継続的に活動に参加いただきました。今後も、このつながりを大切にしていきたいと思えます。

#### 3-2-1 ボランティアセンタープログラム

=ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

【事業費：505,909円】

事業目的	○ ボランティアに関心のある人々を巻き込んでいながら、学び・学びあいの場を提供していきます。 ○ 私たちが展開する様々なプログラムに参加することを通じて、ボランティア・市民活動について相互に学び合う場を作ります。
実施日時	通年
実施場所	NPO法人ひゅーるぽん
対象者	学生、企業など
実施内容	(1)それぞれの拠点、行事等への文化活動やボランティアの積極的な受け入れ。 (2)中学生～大学生の職場体験実習やボランティアの積極的な受け入れ。 (3)希望された方々を中心に、定期的なメールマガジンの配信による、活動の発信や行事の案内。 (4)地域の中学生・高校生向けの「夏のボランティア体験プログラム」の実施。 のべ79人参加。



### 3-2-2 ボランティアコーディネーター養成講座

=ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

【事業費：11,000円】

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティアコーディネーターの知識を深めるとともに、実践力を身につけたコーディネーターを育成することで、各団体におけるボランティア受け入れ資質の向上と市民活動の充実を図ります。</li> <li>○ 広島各現場で活動するコーディネーター同士が日常的につながることで、連携によるコーディネートが可能になるとともに、協働によるまちづくり活動を実施します。</li> </ul>
実施日時	通年
実施場所	広島市総合福祉センター、広島市西区地域福祉センター
対象者	ボランティア、施設、企業、団体など
実施内容	<p>(1)基礎編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実施日時：平成30年1月20日（土） 10:00-16:00</li> <li>○ 実施場所：広島市総合福祉センター5階会議室1 参加者 9名</li> <li>○ 内 容：「ボランティアコーディネーターの役割とスキル」</li> <li>○ 講 師：大阪ボランティア協会 理事・事務局長 永井 美佳氏</li> </ul> <p>(2)応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実施日時：平成29年11月7日（日） 13:00-17:00</li> <li>○ 実施場所：広島市西区地域福祉センター3階大会議室 参加者 14名</li> <li>○ 内 容：あなたのまちを住民主体のまちへ ~住民主体のまちづくりを仕掛けるボランティアコーディネーター~ (高島市における実践事例紹介)</li> <li>○ 講 師：ローカリズム・ラボ代表 井岡 仁志氏</li> <li>○ パネラー：広島市役所高齢福祉部高齢福祉課 課長 末政 直美氏 広島市安佐南区社会福祉協議会 主任 石田 浩巳氏 NPO法人ひゅーるぽん 理事長 川口 隆司</li> </ul> <p>※この事業は広島市社会福祉協議会との共催事業として実施しました。</p>



### 3-2-3 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議プログラム

＝緊急・災害時の支援に関わる事業

【事業費：0円】

- (1) 2017年 6月 9日 (金) 連絡調整会議への出席
- (2) 2017年10月31日 (土) 災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションへの参加
- (3) 2018年 3月23日 (金) 災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションへの参加

### 3-2-4 その他 講師・委員派遣 =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

事業目的	講師や委員の派遣、受け入れを通して、社会啓発、ボランティア・NPO活動を推進するための社会基盤整備、まちづくりに関する提言を行います。
実施日時	通年
実施場所	広島県内各地、広島市内
実施内容	<p>講師派遣            広島市立大学、広島県立大学、比治山大学、広島文化学園大学、西区民生委員児童委員協議会</p> <p>委員等派遣            広島市社会福祉審議会委員（高齢福祉部会・子ども子育て部会）            広島市地域福祉計画策定委員            ひろしまNPOセンター（理事）、コミュニティ未来創造基金ひろしま（評議員）            広島市社会福祉協議会理事            広島市社会福祉協議会第8次地域福祉推進プラン策定委員（副委員長）            広島市社会福祉協議会地域福祉総合企画委員会委員            広島市社会福祉協議会基金管理運営委員会(委員長)            広島市ボランティア情報センター運営委員会（委員長）            広島市安佐南区社会福祉協議会（評議員）            広島市安佐南区ボランティアセンター運営委員会（副委員長）            慈光園地域包括支援センター運営協力者会議（委員）            広島県あいサポートアート展（企画委員、審査員）            広島市民生委員・児童委員に関する懇談会委員            広島市災害ボランティア連絡調整会議委員 など</p>

### 3-2-5 職場体験・実習生等の受け入れ =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

- |             |            |         |          |
|-------------|------------|---------|----------|
| (1)職場体験     | 広島市立城南中学校  | 2名（1日間） |          |
| (2)実習       | 広島文化学園大学   | 音楽療法実習① | 8名（6回）   |
|             |            | 音楽療法実習② | 8名（6回）   |
|             | 県立広島大学     | 社会福祉実習  | 2名（15日間） |
|             | 広島国際大学     | 社会福祉実習  | 1名（24日間） |
|             |            | 保育実習①   | 2名（19日間） |
|             |            | 保育実習②   | 3名（16日間） |
| (3)インターンシップ | 県立広島商業高等学校 | 1名（3日間） |          |

平成29年度  
 特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーる ぽん活動実績

1.年間活動時間 7,697時間

【内訳】

①運営に係わるプログラム 会議日 251 時間

②コミュニティスペースプログラム 4,422 時間

■ひよこ組 1,170 時間

■きっず組 1,764 時間

■ぽんぽん 1,488 時間

③まちづくりフロンティアプログラム 2,998時間

④コミュニティボランティア参加育成支援プログラム 26時間

2.ボランティア年間活動参加のべ人数 455名

■センター 226 名

■ぽんぽん 45 名

■まちづくり 184 名

3.会員登録数 131 名

■正会員 29 名

■賛助会員 102 名